

白い下地

泉鏡花

青空文庫

色といえは、恋とか、色情とかいう方面に就いての題目ではあろうが、僕は大に埒外に走つて一番これを色彩という側がわに取ろう、そのかわり、一寸仇ツぽい。

色は兎角とかく白が土台になる。これに色々の色彩が施されるのだ。女の顔の色も白くなくツちや駄目だ。女の顔は浅黒いのが宜いというけれど、これとて直ちにそれが浅黒いと見えるのでは無く、白い下地が有つて、始めて其の浅黒さを見せるのである。

色の白いのは七難隠すと、昔の人も云つた。しかしながら、ただ色が白いというのみで意気の鈍い女の顔は、黄いろく見えるような感がする。悪くすると青黒くさえ見える意気がある。まった

く色が白かったら、よし、輪郭は整つて居らずとも、大抵は美人に見えるように思う。僕の僻見かも知れぬが。

同じ緋縮緬の長襦袢を着せても着人きてによりて、それが赤黒く見える。紫の羽織を着せても、着人によりて色が引き立たない。青にしろ、浅葱にしろ、矢張着人によつて、どんよりとして、其の本来の色を何処かに消して了う。

要するに、其の色を見せることは、其の人の腕によることで、あたか恰も画家が色を出すのに、大なる手腕を要するが如しだ。

友染の長襦袢は、緋縮緬の長襦袢よりは、これを着て、其の色を發揮させるに於いて、確に容易である。即ち友染は色まじが混つて居るがため、其の女の色の白いと然らざるとに論無く、友染の色

と女の顔の色とに調和するに然^さまでの困難は感ぜぬ。緋縮緬に至つては然^さにあらざることには前に述べた。

是を以て見るに、或る意味から之をいえば、純なる色を發揮せしむることは困難といひ得る。さればこそ混濁された色が流行するようになって来た。かの海老茶袴は、最もよくこれ等の弱点を曝露して居るものといわねばならぬ。

また同じ鼈甲を差して見ても、差手によつて照^{てり}が出ない。其の人の品^{ひん}なり、顔なりが大^{あずか}に与つて力あるのである。

すべての色の取り合わせなり、それから、櫛なり簪なり、ともに其の人の使いこなしによつて、それぞれの特色を發揮するものである。

近来は、穿き立ての白足袋が硬く見える女がある。女の足が硬く見えるようでは、其の女は到底美人ではない。白い足袋に調和するほどの女は少いのである。美人が少いからだ。足袋のことをいうから次手に云っておく。近来は汚れた白足袋を穿いて居るものが多い。敢えて新しいのを買えとはいわぬ。せつせつ洗えば、それで清潔きれいになるのである。

或る料理屋おちやの女将かみさんが、小間物屋がばらふの櫛を売りに来た時、

丁度半纏を着て居た。それで左手を支たいて、くの字なりになって、めて右手を斜に高く挙げて、ばらふの櫛を取つて、透かして見た。その容姿すがたは似つかわしくて、何ともいえなかつたが、また其の櫛の色を見るのも、そういう態度でなければならぬ。今これを掌へ取

つて覆^{かえ}して見たらば何うか、色も何も有つたものではなからう。
かたがた
旁々これも一種の色の研究であらう。

で、鼈甲にしろ、簪にしろ、櫛にしろ、小間物店にある時より、
またふつくらした島田の中に在る時より、抜いて手に取つた時に
真の色が出るのである。見られるのである。しかしながら長襦袢
の帯を解いた時に色を現すのはこの限にあらず。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆7 色」作品社

1983（昭和58）年5月25日第1刷発行

1999（平成11）年2月25日第20刷発行

底本の親本：「鏡花全集 第二十八卷」岩波書店

1942（昭和17）年11月

入力：門田裕志

校正：林 幸雄

2002年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

白い下地

泉鏡花

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>